

141 名古屋大学が輩出した文化功労者の歴史

昨年11月、豊田講堂の設計者で、2007(平成15)年度竣工の全面改修工事の際にも設計を担当した横 文彦氏が文化功労者に選ばれました。文化功労者の制度は、1951(昭和26)年に創設されました。国が文化の向上発達に関し特に功績顕著な者に年金を支給し、これを顕彰するために設けられたもので、文化勲章に次ぐ栄典です。

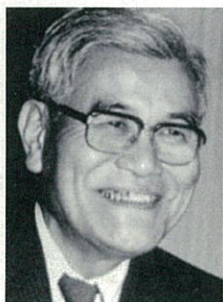
これまで名大では、表1のように、19名もの文化功労者を輩出してきました。今回は、その歴史を簡単にたどってみたいと思います(以下、敬称・肩書きは略します)。

名大の歴代文化功労者のうち、勝沼精藏、澁澤元治、柴田雄次、久野 寧という初期の4人は、学外からの招へいと前身大学からの移行という違いはあれ、いずれも名大創立当初からの教授であり、その頃には偉大な業績が一般に認められていました。これに対し、その次の高橋信次と平田義正は、名大に赴任した時期は古いものの、それから選出までに時間を要しており、名大における研究業績に基

づく文化功労者の先駆けといえるでしょう。また平田は、名大で中西香爾、岸 義人、下村 脩を指導し、若き日の野依良治を名大に招くなど4人の文化功労者に関わっており、その名伯楽ぶりも注目されます。

そして平成10年代に入ると、名大卒業生の文化功労者が相次いで誕生しました。中西香爾、岸 義人、小林 誠、益川敏英、塩野谷祐一、竹市雅俊、杉浦昌弘がそれぞれです。総合大学としての創設が1939年と比較的遅かった名大ですが、自由闊達な学風が実を結んだ結果といえるでしょう。名大で研究生生活の多くを過ごした野依良治や赤崎 勇を含めて、名大の文化功労者の半分以上は、最近15年ほどの間に選ばれています。

そして、文化功労者となった野依良治、小林 誠、益川敏英、下村 脩の4人が、のちにノーベル賞を受賞したことは、皆さんもご存じの通りです。



所 属 (在籍時)	氏 名	専 門	決定年月
医学部・総長	勝沼 精藏	血液学・航空医学	1954年11月
総長	澁澤 元治	電気工学	1955年11月
理学部	柴田 雄次	無機化学	1962年11月
医学部	久野 寧	生理学	1963年11月
医学部	高橋 信次	放射線医学	1979年11月
理学部	平田 義正	天然物化学	1990年11月
理学部	森 重文	数学	1990年11月
大学院理学研究科	野依 良治	有機化学	1998年11月
理学部	中西 香爾	有機化学	1999年11月
農学部	岸 義人	天然物有機化学	2001年11月
大学院理学研究科	小林 誠	素粒子物理学	2001年11月
理学部	益川 敏英	素粒子物理学	2001年11月
経済学部	塩野谷祐一	経済哲学	2002年11月
理学部	伊藤 清	数学	2003年11月
大学院工学研究科	赤崎 勇	半導体電子工学	2004年11月
大学院理学研究科	竹市 雅俊	発生生物学	2004年11月
理学部	下村 脩	海洋生物学	2008年11月
遺伝子実験施設	杉浦 昌弘	植物分子生物学・植物ゲノム科学	2009年11月
理学部	田中 靖郎	X線天文学・学術振興	2010年11月

- 2 | 1
- 3 | 4
- 1 名大の文化功労者一覧。
 - 2 勝沼精藏 (1886-1963)。1919年に医学部の前身である愛知県立医学専門学校教授となって以来、名大一筋で通した。名大史上初の文化功労者となると同時に、文化勲章も受章した。第2代総長でもあり、10年にわたってその任にあった。
 - 3 平田義正 (1915-2000)。名大名誉教授。1944年に名古屋帝国大学理学部講師として赴任して以来、1979年に定年退職するまで名大にあった。フグ毒の解明などに大きな業績を残した。
 - 4 中西香爾 (1925-)。1947年に理学部を卒業、名大(前身学校を除く)卒業生初の文化功労者となった。2007年には文化勲章も受章。イチョウから抽出される「キンコライド」の研究が著名。現在、名大特別教授・高等研究院アカデミー会員。